

令和 6年度	新金岡こども園評価書	堺市立新金岡こども園
教育・保育理念	園の重点項目	令和7年度 重点内容
・自分も友だちも大切に作る心の育成 ・学びの芽の育成 ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成	・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、充実感や満足感を味わう体験を大切にする。	・一人一人を大切な存在と受け止め、お互いを認め合う心を育てる。 ・健康で安全な生活を作り出せるよう、しなやかな心と体を育てる。 ・五感を通して自然を身近に感じられる教育・保育に取り組む。 ・地域の資源を活かし、さまざまな人やものとふれあうことを大切にする力を育てる。

重点内容	重点内容に向けた具体策	評 価 項 目	自己評価		こども園関係者評価	
てい在一 るをと人 。認受一 めけ人 合止を うめ大 心、切 を、おな 育互存	一人一人のこどもの気持ちを受け止め、共感しながら信頼関係を築いていく。	・一人一人のこどもの家庭状況を理解し、園児が安心し心地よく過ごせるようにする。	A	・大人との関係を大切にしこども一人一人の思いを受け止め信頼関係を築き、生活面や体調面などを留意しながら安心して過ごせるように努めた。 ・あそびにも活発に取り組むことで、友だち関係を築き、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付けたりしながら友だち関係を深めることができた。また、集団で遊ぶ楽しさや難しさを感じながら皆で考え話し合うことで、集団作りの楽しさも味わえた。	A	・こども一人一人をしっかり見て感じている。 ・年齢に応じた関わりをしているので、こどもたちの成長も感じられる。 ・保育教諭の振る舞いがこどもたちに届いていると感じる。
		・大人との愛着関係や安心感のもと、人を信頼し生きていく力の土台を育てる。				
		・園児の表情や行動を温かく見守りながら、思いをうけとめ自尊感情を育てる。				
	友だちとの思いや気持ちに気づけるようにし、お互いを認め合える関係を作っていく。	・一人一人のこどもの思いを大切にしたいうえで、相手の思いに気づける関わりをする。 ・自尊感情を高め、お互い尊重し合い、育ち合う集団作りをする。	A		A	
をしを健 育な作康 てやりで るか出安 なせ全 心るな とよ生 体う活	安心・安全な環境づくりに努め、遊具の遊び方やルールを知らせ安全に遊べるようにする。	・遊びを通して安全についての構えを身につけ、危険な場所や事物等が分かり安全についての理解を深めるようにする。 ・こどもの意欲や探求心を引き出す人的環境(やりたい気持ちの尊重・問いかけや誘い言葉)を大切にする。	B	・発達過程に基づいたあそびの環境を整え、こどもたちが遊びたくなる環境づくりを取り入れ、安全面においても遊具の点検や準備運動をしたりアートヨガをしたりしてけがの無いように取り組んだ。 ・安心できる保育教諭や友だちと遊んでいく中であそびに対する興味や関心が深まり、ルールのある遊びや集団遊びなど様々なあそびに展開することができた。	A	・体操や運動遊具を使いこどもたちが安心して身体づくりを楽しんでいるのがわかる。 ・園でみんなと楽しく走り回れているからこそ家庭に帰っても同じように楽しく遊んでいる。
	リズム遊びやアートヨガ、運動遊びを積極的にを行い、健康でしなやかなからだづくりを行う。	・発達過程に基づいたあそびの提供をおこなう。 ・体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。	A		A	
	むじ五 。ら感 れをる 通教し 育て自 保然 育をを 身に取 近りに 組感	散歩や菜園活動に計画的に取り組む、季節の環境を大切にする。	A	・年齢に応じた自然との触れ合い方も考え、地域の公園に行き、草花に触れたり、ビオトープの中での草花に触れたりする中で、こどもたちの中で様々な発見や気づきからあそびが発展することができた。 ・菜園では、2歳児～5歳児まで様々な夏野菜や冬野菜に水やりをして育て、生長を観察しながらこどもたちが楽しみに育て収穫することができた。 ・野菜の収穫した後、クッキングをする中で、だしを取った鰹節などを利用したりとSDGsに関心が持てるようにしたり工夫した。食への意欲が高まり給食の残食が減った。家庭においてもこどもたちとの会話の中で実際に作ってみたりという声もあった。	A	・ビオトープや散歩、菜園など自然を感じられるようにしたうえでSDGsに関心を持てるようにする等、大変だと感じました。 ・体験や遊びなどから友だちや保育教諭と話すことで経験したことを深めており、保護者の方への会話にもつながっていると感じた。 ・食育に関しては、自分たちで収穫したものを目の前で調理し、実際に食べるという家庭ではできない体験を通して、こどもたちの食欲に増加にもつながっていると感じた。
切な地 に人域 すやの るも資 力のを ふ活を てふれ かあし 。う、 ことま ざ大ま	環境づくり(ビオトープ)を通してSDGsを意識した取り組みをする。	・園内にビオトープを作り、植物やメダカなどの生き物に対する興味関心を深め、自然が身近に感じられるようにする。 ・こどもが主体となって興味をもって取り組んだり、友だちや保育教諭と一緒に話し合う中で、考えたり、不思議に思ったりしながらSDGsの取り組みをしていく。	A		A	
	菜園活動を通して食育活動につなげる。	・季節にあわせて様々な野菜や花の栽培をおこなっていく。 ・園内で菜園計画をたて、収穫する喜びを味わい食べ物の大切さを伝える。	A		A	
す職員 の資質 向上を めざ	堺市の歴史や文化、公共施設等の特性を生かした教育・保育を行う。	・堺市の歴史や文化、園周辺のさまざまな地域の人々や公共施設等、豊かな環境を発達に応じた活動を通して、興味や関心を持てるようにする。	A	・こども園の周辺の施設に興味や関心を持ちさまざまな人たちと触れ合う力がつくように園内研修に取り入れてきた。各年齢に応じた取り組みをおこなうことで興味や関心がひろがってきた。 ・小学校との連携の取り組みとして、運動場へ散歩に行く機会を増したことでどの年齢も小学校への興味ができてきている。5歳児は、小学生との交流もできより身近に感じる事ができた。次年度は、職員が小学校への接続に向けて交流をできるようにしていきたい。 ・ドキュメンテーションの写真を増やすことでより園での様子を理解してもらったり、懇談会でより詳しく説明していくことで理解してもらえた。	A	・立地に恵まれているからこそ、それを生かした取り組みをしているのはありがたい。 ・地域内を散策や見学をされ、新しく人や物に触れ合うことが大事だと思う。 ・小学校との交流は未来の自分たちの姿を想像する力にもなりよい機会となり、小学校生活がスムーズに移行できると感じた。
	民間園との交流やこども園の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図るようにする。	・こどもが小学校生活にスムーズに移行できるように民間園や小学校と交流の機会を持ったり、園での教育・保育内容や育ちを小学校に伝えたりして円滑な接続を図る。	B		A	
	保護者との信頼関係を築き、教育・保育内容を工夫して伝えこどもの成長を共有する。	・保護者の思いや考え方を尊重しながらも専門職として助言を行い、保護者が自己決定し子育てに前向きになれるよう支援する。 ・教育・保育内容をドキュメンテーションや映像を通して可視化し保護者にわかりやすく伝えていくようにする。	A		A	
	園内研修の充実を図り、教育・保育の質の向上につなげる。	・こどもの興味・関心などの実態や発達に即した、教材研究を行い、教育・保育内容の充実を図る。	B	・園内研修や公開保育を行うことで園の取り組みやこどもたちへのかかわり方などを見てもらい前向きな意見をいただき、今後の教育・保育に活かしていきたい。 ・各年齢においてこどもの発達を理解し、職員同士が教育・保育について話し合ってきたが、より教材研究や職員同士の共通理解を深められる機会を作り質を高めていきたい。	A	・これからもっと職員の資質が向上しこどもたちに還元されることを期待したい。 ・これから保護者が安心して預けられる、さらなる向上心のある保育教諭がこどもたちに向かい合っている努力に期待します。
	教育・保育の質の向上をめざし理念や目標について共有する。	・教育・保育理念や目標、重点項目について職員同士が共通理解をする。 ・教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図り、専門性を高める。	B		A	

今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
こども園の教育・保育と小学校教育との理解や共有をしながら各年齢における教育・保育を進め共通理解していく。	各年齢における教育・保育の中でこどもたちにつけたい力は、小学校ではどのような力になっていくのか「10の姿」を意識して教育・保育をしていく。また、小学校教育への理解を全職員が意識していく機会を持つていく。
あそびの中で体力づくりに取り組み、安全に過ごせるようにする。	全身を使ったあそびを年間を通して取り入れることで、しなやかな身体づくりや手指の機能の発達を促し、安全に遊べるようにしていく。また、姿勢に関しても体幹を作るあそびや運動を取り入れ、姿勢を正して話を聞くことができるようにしていく。

園長より
重点目標を大切にしながら各年齢発達を抑え教育・保育を進め、こどもたちに寄り添い安心・安全の教育・保育に取り組んできた。その中で今年度は、地域資源を活用した園内研修に取り組むことで、今までと違った角度から地域資源と関わり、取り組んでいくことでより専門性を高めることができた。しかし、課題となっている部分において皆で話し合い振り返りをおこない、今後どのように取り入れていくか考え実践していきたいと思います。